

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

トウキョウダルマガエル

Pelophylax porosus porosus (Cope, 1868)

福山欣司（慶応義塾大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：福山欣司，2026. トウキョウダルマガエル. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物， pp. 674-678.

Citation: Fukuyama, K., 2026. *Pelophylax porosus porosus* (Cope, 1868). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 674-678.

トウキョウダルマガエル

Pelophylax porosus porosus (Cope, 1868)

カテゴリー判定結果		準絶滅危惧（NT）		①②	
基準 A: —	基準 B: VU 未満	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —	
生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。 具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。					
①個体数が減少している。					
【判断理由】					
生息が確認されている 12 都県すべてで減少傾向が見られる。特に東京都、千葉県、神奈川県、群馬県、新潟県、長野県では絶滅危惧種に指定されている。					
②生息条件が悪化している。					
【判断理由】					
ほぼすべての生息地で中干しによる幼生の生息環境の悪化が見られる。					
評価分科会： 爬虫類・両生類分科会					

概要

関東平野から仙台平野、信濃川流域、新潟平野の一部に分布する。北海道の一部地域に人為分布している。池沼や河川敷などに生息することもあるが、ほとんどの地域では水田に生息している。水辺への依存性が高く、年間を通して水田や周辺の水路などを離れることはない。かつては水田で普通に見られる動物であったが、圃場整備や稲作の効率化などの影響で、各地で急速に減少している。

基礎情報

【形態】

体長はオスで 39～75 mm、メスで 43～87 mm。脛長は体長の 42%程度で、トノサマガエルより短い。体背面は概ね緑色から暗緑色を基調とし、暗灰色や黒色の小斑紋が広がる。緑がかった明色の背中線を持つ個体もいる。体色に雌雄差はない。背面にはミミズ状の隆条が不規則に並ぶ。トノサマガエルと比較すると、隆条は短く、浅く、不明瞭である。趾間のみずかきは発達している。

【生活史】

繁殖期は 4～7 月。オスは水田などの水面を泳ぎながら鳴いて縄張りを形成し、メスを待つ。メスは水中に 2,000 個前後の卵を卵塊として産むが、水底に広がって、泥などが付着するので、発見しにくい。幼生は珪藻や有機物を食べて成長し、7～9 月に変態する。成熟年齢はオスで 1 才から 2 才、メスで 2 才から 3 才と推定されている。10 月を過ぎると、落水した水田内や畦、周辺部などの土に穴を掘って冬眠する。本種は生活史の全体を通して、水辺から離れることは少ない。

【生息環境】

山間地の水田にも生息するが、おもな生息地は平地の水田である。一部の個体群は小河川、水路、池沼、湿地、河川敷などにも生息している。浅い止水を好み、水辺や周辺部の草地などが生息範囲である。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】田地・畑地，耕作放棄地，農業用水路，湿地・湿原・細流，ため池・池沼
	【陸域_平地部】田地・畑地，耕作放棄地，湿地・湿原，農業用水路，小河川，ため池・池沼
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域，(4) 河川・湿地地域

【分布域】

関東平野から仙台平野にかけて、および新潟県と長野県の一部に分布する。基本的に亜種のダルマガエルや近縁種のトノサマガエルとは分布域が重ならないが、新潟県と長野県の一部地域ではそれらと同所的に分布することもある。

現在の生息状況

【分布域の現況】

本来の分布域に加え、北海道の一部に人為分布する。最近、東京都江東区でも確認されている。

【生息地の現況】

おもな生息地である水田が減少し、水耕栽培の効率化の影響で生息環境は悪化している。

【個体数の現況】

おもな生息地である水田の消失、圃場整備による水田環境の変化、中干しによる幼生の減少などにより個体数は減少している。特に関東平野では、孤立した小規模な個体群になっている生息地が多い。

存続を脅かす要因

おもな要因として、都市化による水田の減少、耕作放棄による水田の陸地化、圃場整備、水路のコンクリート化、水管理の強化に伴う湛水期以外の水不足、中干しの導入など水稻耕作法の変化、農薬の使用、生息環境が類似する侵入種ヌマガエルの分布拡大などが挙げられる。

要因の区分：	(過去)	湿地開発、圃場整備、土地造成、農薬汚染/化学物質汚染、管理放棄、競争/競合（外来種による）
	(現在)	湿地開発、圃場整備、土地造成、農薬汚染/化学物質汚染、管理放棄、競争/競合（外来種による）、その他（水田の中干し）

特記事項

特になし。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	トウキョウダルマガエル	<i>Pelophylax porosus porosus</i>	NT
第4次 2019:	トウキョウダルマガエル	<i>Pelophylax porosus porosus</i>	NT
第4次 2018:	トウキョウダルマガエル	<i>Pelophylax porosus porosus</i>	NT
第4次 2017:	トウキョウダルマガエル	<i>Pelophylax porosus porosus</i>	NT
第4次 2015:	トウキョウダルマガエル	<i>Rana porosa porosa</i>	NT
第4次:	トウキョウダルマガエル	<i>Rana porosa porosa</i>	NT
第3次:	トウキョウダルマガエル	<i>Rana porosa porosa</i>	NT
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【岩手県】留意，【宮城県】準絶滅危惧(NT)，【福島県】準絶滅危惧(NT)，【茨城県】情報不足①注目種，【栃木県】準絶滅危惧(Cランク)，【群馬県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【埼玉県】準絶滅危惧Ⅰ型(NT1)，【千葉県】重要保護生物(B)，【東京都（本土部）】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【東京都（区部）】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【東京都（北多摩）】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【東京都（南多摩）】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【東京都（西多摩）】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【神奈川県】絶滅危惧Ⅱ類，【新潟県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【長野県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

指定なし

参考文献

- 千葉県, 2020. 千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドリスト動物編 2019 年改訂版.
https://www.bdcchiba.jp/redlist_animal_2019
- 福島県, 2024. ふくしまレッドリスト 2024 年版.
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16035b/redlist-kaiteikouhyou.htm>
- 福山欣司・草野保, 2013. 東京都におけるカエル類の生息状況の現状と課題. 爬虫両棲類学会報, 2013: 111-127.
- 群馬県, 2022. 群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（群馬県レッドデータブック）動物編 2022 年改訂版. 群馬県環境森林部自然環境課, 前橋. 296pp.
- 長谷川雅美・草野保・福山欣司, 2000. 日本における両生類個体群減少の認識過程. 千葉中央博自然誌研究報告, 特別号 3: 1-7.
- 茨城県, 2016. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物動物編 2016 年改訂版（茨城県版レッドデータブック）. 茨城県生活環境部環境政策課, 水戸. 327pp.
- 岩手県, 2024. レッドリスト(2024 年度).
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/rdb/1074862/index.html>
- 松井正文・前田憲男, 2018. 日本産カエル大鑑. 文一総合出版, 東京. 271pp.
- 宮城県, 2024. 宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2024 年版-.
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/red2021.html>
- 長野県, 2015. 長野県版レッドリスト（動物編）2015.
<https://www.pref.nagano.lg.jp/shizenhogo/kurashi/shizen/hogo/kisyoyasei/redlist/redlist-download.html>
- 日本爬虫両棲類学会（編）, 2021. 新日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版, 彦根. 232pp.
- 新潟県, 2016. 新潟県第 2 次レッドリスト（新潟県の保護上重要な野生生物の種のリスト）両生類・爬虫類編. 新潟県県民生活・環境部 環境企画課, 新潟. 24pp.
- 埼玉県, 2018. 埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）. 埼玉県環境部みどり自然課, さいたま. 419pp.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原. 442pp.
- 栃木県, 2023. 栃木県版レッドリスト（第 4 次／2023 年版）.
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/redlist.html>
- 東京都, 2023. 東京都レッドデータブック 2023— 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版 —. 東京都環境局自然環境部, 東京. 879pp.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

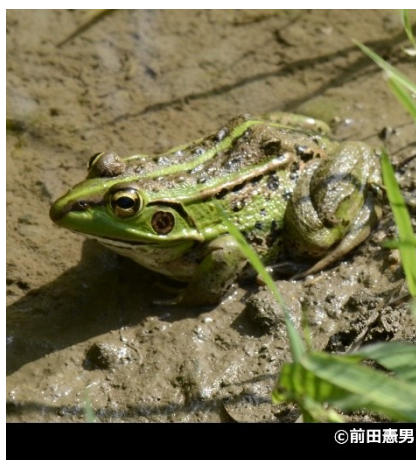
Pelophylax porosus porosus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pelophylax porosus porosus* is listed as NT under criteria ①②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

①The number of individuals is decreasing.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Farmland, Abandoned farmland, Agricultural ditch, Wetland/Marsh/Stream, Reservoir/Pond 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Farmland, Abandoned farmland, Wetland, Agricultural ditch, Small river, Reservoir/Pond
Threat types:	Wetland development, Field preparation, Land development, Pesticide/Toxic chemical pollution, Abandonment of management, Competition (with alien species), Other
Law designation status for conservation	—



©前田憲男



©前田憲男

執筆者: 福山欣司 (慶応義塾大学)
Author: Kinji Fukuyama

公表年月: 2026 年 3 月